

令和2年度 学校自己評価表

推進シ 小中重 教育	中期経営 目標	短期経営目標	目標達成のための手立て	評価指標	自己評価		改善計画	学校関係者評価	
					達成率	評 価			
確かな学力	基礎基本の学力の確実な定着	基礎学力が確実に定着し、学力が向上する。	「楽しく」「わかる」授業の工夫・改善を図る。	○標準学力調査で、正答率60%を上回る。100% ○国算の単元末・学期末テストの通過率 80ポイントを超える児童 低 85% 中 80% 高 75%以上	94	A	○朝や昼のドリルタイムを活用しながら既習事項を確認するとともに、個別指導の充実を図る。 ○課題のある教科の授業については、TT等で可能な限り授業を行って学習内容を確実に身に付けさせたり、放課後の時間を活用したり、個別指導を行ったりしながら、学力定着に取り組む。 ○これまで数年間、国語科を中心に授業研究を行ってきたが、来年度は教科を絞らない教科オープン型の教育研究を進め、授業改善に取り組む。	○全ての学年において数値目標を達成できている。 ○昨年度までに、課題があった学年についても学校の取組により、経年比較で確実に正答率が上昇している。 ○児童のつまづきを明確にし、授業改善、個別指導に取組み、児童の基礎学力定着を目指してほしい。	
			振り返りの視点や振り返りの仕方について指導する。	○振り返りの視点をもって振り返りができている児童 80%以上にする。	105				○アンケートの結果は84%で、指標達成率は 105%となった。担任の見取りによる評価は向上したものの、 ○目標値は達成しているが、児童アンケートと教師アンケートの数値に差があるので、児童一人一人が振り返りの意味を自覚して自分の学びに反映させていく。
地域と創る学校	コミュニティ・スクールの推進	「社会に開かれた教育課程」の充実を図る。	子どもと大人とが協働して学習活動を行う場を設定する。	子どもと大人とが協働して行う学習活動を、年間2回以上実施する。	100	A	○コロナ禍でも、年度の後半からは、感染症対策を行いながら、地域の方や企業との協働的に継続した活動、CSお礼の会(学習発表会)などを実施することができた。 ○子供と学校運営協議会と一緒に企画・運営していくところまではまだ十分できていない状況である。	○新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、計画された取組の多くが中止となった。今年度は当然のことである。 ○来年度は、できることを無理をせず、感染症対策をしっかりと行いながら、取組を進めてほしい。	
豊かな心	自らを律し、自立し、相手意識をもつ	進んであいさつを行う。	府南の「あいさつレベル5」目標にあいさつをする生活態度を身につけさせる。	【当初の目標指標】 1・2年生 レベル2 児童90%以上 3・4年生 レベル3 児童90%以上 5年生 レベル4 児童90%以上 6年生 レベル5 児童70%以上	101	A	【新型コロナ感染症感染拡大の状況下のため評価対象から除外した】 ○新型コロナウイルスの影響で今年度は正確な集計が困難だった。児童会を中心に、「世界の挨拶をしよう」と取り組みんだり、玄関前などで挨拶運動に取り組んだりした。	○あいさつの意義について確認し、人と人とのコミュニケーション手段の一つとして登下校のみならず、日常の場において、気持ちよい挨拶を心がけ、府南学園として魅力ある児童生徒の育成を目指す。	
		無言掃除を行う。	15分間黙って掃除に取り組ませる。	児童の自己評価 80%以上 教師の評価 80%以上(府南)			○全学年の平均肯定的評価の割合は83.3%となり、目標値を達成した。 ○一部において、掃除のとりかかりが遅いことや、集中して掃除ができない児童もいる。	○掃除の仕方については、低学年の時から丁寧に指導していく。 ○家庭でも「掃除をする」という経験をもっとさせていくために、家庭との連携も図っていく。	
	不登校児童0をめざす。	学期ごとの欠席を10日以内にする。	楽しく充実した学校生活になるような学級経営を行う。家庭への積極的なはたらきかけを行う。	【当初の目標指標】 学期ごとの欠席が10日以内の児童100%以上	【新型コロナ感染症感染拡大の状況下のため評価対象から除外した】 ○今年度は、新型コロナウイルス感染症の対応で、出席停止扱いの数値が多くあるために、正確な集計が困難であった。	○児童が楽しく学校生活が送れるよう、家庭との連携を密にし、学校に相談しやすい関係を築いていく。 ○不登校(傾向も含む)児童への取組は、当該児童への声掛けや、保護者連携、専門機関との連携等、学校の重点的な取組として実施継続中である。	○全国的に不登校児童・生徒が増加していることが大きな教育課題となっていることを耳にする。個々の家庭や児童によって、その要因は様々だと思うが、地域の方と共に登校することで不登校傾向の児童の状況が改善されていったという事例もあった。今後も家庭、地域と相互に連携・協働しながら不登校児童への取組を進めてほしい。		
頑張る体力	健康的な体と基礎的な運動能力の育成	進んで体力づくりを行う。	・体育科の授業改善、業間体育の工夫をすすめる。 ・外遊び奨励を継続する。	【当初の目標指標】 新体力テスト総合評価(5段階)が、B以上の児童の割合65%以上			【新型コロナ感染症感染拡大の状況下のため評価対象から除外した】 ○新型コロナウイルス感染症により、全国の新体力テストが中止となったが、府南学園で統一して11月6日に実施項目を一部削除して実施した。 ○昨年度は、立ち幅跳びにおいて全国平均を下回る学年が多かったが、今年度は、全学年が全国平均を上回ることができた。しかし、50m走や20mシャトルランなど走力に課題が見られた。	○来年度も体育行事を効果的に活用し、行事に向けての練習や外遊びを促す活動を仕組んだりすることで体力の向上を図る。	○駅伝大会やなわとび大会等を取り入れ、児童に興味・関心を持たせるよう体力づくりに取り組んでいる。引き続き、楽しみながらやる気を持たせながら児童の体力づくりに取り組んでほしい。

【達成評価の評価基準】

A	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
B	80%以上100%未満の達成度	おおむね目標を達成できた。
C	60%以上80%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
D	60%未満の達成度	目標を達成できなかった。